2026年3月【堀内議員】一般質問　文字起こし

【桂藤和夫議長】 休憩前に引き続き会議を再開します。次の質問に移ります。堀内議員。

【堀内富夫議員】 議席番号4番堀内富夫です。議長の許しを得ましたので大項目で2点質問をさせていただきます。

大項目1 新しい挑戦のためのリーディングプロジェクトについて

【堀内富夫議員】 大項目1、新しい挑戦のためのリーディングプロジェクトについて。市長は第3期長期総合計画において従来の延長線上ではない市政運営を掲げられ、3つの政策の柱を分野横断的に加速させるため、5つのリーディングプロジェクト「ピースフル」を示されました。本市の構造そのものを再構築していく挑戦であると受け止めており、その方向性には賛同するものであります。一方で令和8年度の予算から見ると、その多くが検討、計画等の策定にかかる予算のみであることから、本プロジェクトが令和8年度単年度の計画策定にとどまるものではなく、複数年にわたる実行計画として設計される必要があると考えております。1、3年程度の中期スパンで市民が成果を実感できる道筋が描かれているのか、市長の見解を伺います。以降の質問は質問席にて行います。

【八谷市長】 ご質問にお答えいたします。ピースフルは本市が目指す将来像を実現するための重要な戦略的取り組みであり、令和8年度予算におきましてはプロジェクトごとの計画策定と推進体制の整備に重点を置いております。これらのプロジェクトは複数年にわたる進捗を想定しており、段階的に進めていく必要がございます。その過程におきましては市民や関係団体の皆様への進捗報告や意見交換などを適宜適切に行い、手順を踏みながら事業実施を行ってまいります。ご承知の通りこの複数のプロジェクトは現在緒についたばかりであることから、令和8年度中に具体的な数値目標を全て決めることは想定しておりません。今後の事業の進捗に応じて段階的に目標化していくプロセスを通じて、適時に成果が実感していただけるよう適切なプロジェクトマネジメントに努めてまいります。

【堀内富夫議員】 当然策定の段階ですので、目にみえて令和8年度に数値的なものが見えてくるっていうのがなかなか難しいとこは承知の上でございます。ただ数字の面で言いますと、令和8年度プロジェクトスタートの年ということで、5つのリーディングプロジェクトそれぞれですね、ブランディング730万円で、食料エネルギーが916万円で観光で1432万円、コンパクトネットワークで1000万円で、5番目人材育成で505万円ということでですね、大きなところが大体業務委託ということにはなっております。ただスタート年に動いてる、始まったばっかりの年ですから当然だとは思うんですが、PDCAのPの部分、計画の部分だけ令和8年度動いていくのかなという風に捉えております。ただそうは言っても、1年間そして予算もかけていることですので、この令和8年度末ですよね、終わった時点で1年が経った時点で市民が目でみたり体で感じられる変化として何が起きているかっていうところが、もし具体的に示されるものがあったら教えていただきたいです。

【企画課長】 ご質問にお答えをいたします。来年のこの時期にどういったものが市民の皆さんに実感をしていただけるものがあるかということでございますが、これまで市長の答弁にもありました通り、8年度につきましては、まずは体制を作って、それからこのそれぞれのプロジェクトをどのように進めていくのかというところの工程をきちんと定めて、先ほどの横路議員の答弁にもあった副市長の方から答弁もありましたが、徹底的にまずは調べるべきことを調べていくといったところになります。そうした中で、金曜日の答弁にもありましたが、事業の進捗はそれぞれあろうかと思います。タイミングを逸することなく素早く取り組みを進めるべきものにつきましては、それの対応もしていく形になろうかと思います。そうしたところも含めてですね、これからの未来の話ということになりますので、この時点でこのプロジェクトでこれを示せるとは、ちょっとお示しが難しいかなということをご理解いただければと思います。

【堀内富夫議員】 当然ですね、何かがこう建っていくわけでもなくものがですね動いていくわけでもない状態の時っていうのはなかなか見えづらい部分があって、もどかしい部分も当然あるとは思います。着実に計画策定進めていっていただけたらなと思うんですが、ここは聞くまでもないことなのかもしれませんが、あえて確認のために聞かせていただきます。リーディングプロジェクトですね、この道筋っていうのは誰が描くものなんでしょうか。委託業者入られるということで当然それは否定はしませんが、委託業者が描いた道筋を行政が承認する形なのか、それとも市民が行政と共におなじに描くものなのか、この道筋の設計者というのは誰かというのをはっきりと聞かせていただきたいです。

【企画課長】 ご質問にお答えをいたします。道筋とちょっと業務委託が混在をしてるようなちょっとご質問のような気もしますけれども、業務で言いますと、先ほどの横路議員の答弁にもありました通り、最終的に説明責任を負って推進をしていくのは市がそれを担うと。そうした中で、市民の皆さんや事業者の皆さんの意見や声をしっかり反映をして、技術的な委託の策定のところで専門的知見を有する業者の助力を得ると、そうしたことという風にご理解をいただければと思いますので、誰が道筋を引くかということになると市民と共に市が引いていくという形になろうかと思います。

【堀内富夫議員】 当然のことではあると思うんですが改めて確認させていただきました。策定についてなんですが、この１年間かけて策定をするわけですが、当然複数年にわたって策定したものが実行に移されていく、PDCA で回していくということなんですが、当然市の職員さんの入れ替わりもあったり、もっと言えば上のですね部長さんだったり色々変更があると思います、関わる人たちのですね。例えばなんですが、急にちょっと例え出してきてあれなんですが、有名なサグラダファミリアっていう建物がありますけれども、これガウディの建築ですが、この設計者の死後あるいはですね設計図が戦争で失われたようなんですが、そのような状態でも今まだ建設が続き完成の目処が立っているっていうような状態ではあります。それは誰でも、誰が携わってもっていうわけでもないかもしれませんが、誰でも継承できる原理とシステムがそこに設計されていたからだという風に聞いております。ではこのリーディングプロジェクト例えばですが、市長の任期が終わった後も、担当職員が変わられた後も続けられる設計になっているのか、その継続を保証するものがあるのかどうかお伺いいたします。

【企画課長】 ご質問にお答えをいたします。職員の異動に関して言えばですね、当然的に市の業務というものはやっているわけではございません。組織の中でこう積み上げていくものということですので、担当者とか部署の変更とかでガラッと変わったりするということは基本的にはないです。PDCA を回す中で方向性が変わるということは当然あろうかと思います。また市長の任期以後の云々の話につきましてはそれは市民の負託を得られた市長の考え方によるというところはあろうかという風に思います。

【堀内富夫議員】 誰がなっても続くようなシステムっていうのがあれば続けられるっていう風なこともあるんですが、実はその後ろの方にはですね、やっぱり始められた方の思いっていうのが継承されてるかどうかっていうのは非常に重要な部分だとは思いますので、その辺りも考えていただきたいなという風に思うところでございます。では次の質問に行きます。

産業構造や都市構造の再構築について

【堀内富夫議員】 ２つ目のリーディングプロジェクト、この場合の２つというのは食料エネルギー、コンパクトシティのところを指しております。を通じて、本市の産業構造や都市構造をどのように再構築することを目標としているのか、またその到達を客観的に測る共通の指標や目標は設定されているのかお伺いいたします。

【八谷市長】 ご質問にお答えいたします。5 つのリーディングプロジェクトが目指すものは様々な社会情勢や人口減少といった変化に適応し、他地域との比較優位性を獲得することで未来への成長戦略を描き持続可能なまちづくりを進めていくことでございます。中でも観光消費額の増加と市外からの収入の拡大を図る観光の基盤産業化の推進や、中心市街地の都市機能の充実と機能の集約再配置を進め町の構造転換に取り組む庄原版コン

パクトプラスネットワークの推進は、結果として本市の産業構造や都市構造の再構築につながるものと考えております。なお各プロジェクトの成果や数値目標につきましては先ほどご答弁しました通り段階的に設定いたすこととしております。最終的な目標は今後議論を重ね検討してまいります。

【堀内富夫議員】 なかなか具体的な数値っていうのは出すのが難しいところで、この令和８年度も計画作成というところでまだまだ未成熟なところがあると思いますので、是非今後も引き続きですねそのような目標設定について考えていただけたらいいなと思うんですが、この再構築という言葉を使うためにはですね、今の構造の何が機能していなくなっているのかっていうのを直視する必要があるという風に考えます。なので第１期第２期の長期総合計画においてこちらも当然産業振興であったりとか地域活性化については掲げられているたと思いますが、この第１期第２期には何が足りなかったのでしょうか。教えてください。

【企画課長】 ご質問にお答えをいたします。１期と２期の長総で何が足りなかったのかというご質問でございますが、足りなかったのかという質問、なかなかちょっと広範な質問で一括して回答するのが難しいわけですが、少しちょっと答弁にならないかもしれませんが、それぞれのですね、10 年スパンで長期総合計画をされておりますが、その時にしっかりとした現状分析でありますとか、将来に向けての戦略性というか、その部分が結局社会の情勢の変化に間に合ってなかったと。なかなかこれはですね、今回の３期の長総の策定を通じて実感したところでございますが、10 年先をなかなか見通すというところはですね、非常に困難性も高いというところが私の身をもって実感をしたところであります。そういう中でもですね、きちんと物事を分析する目であるとか力であるとかそうした持たないとですね、なかなか思った通りにこのこと進まない、さらにただ単に考えるだけではなくって、当初立てた仮説をしっかり分析、そしてその分析を経て改善すべきは改善すると、そうした行政としての振る舞いと言いますか、そうした取り組みがですね、ここに至っては少し不足していると言えば不足していたかなという風に思っております。

【堀内富夫議員】 おっしゃっていただいた通り本当に特に 10 年先どうなってるのかっていうのは見通しが非常に難しいと思います。そんな中それでも長期総合計画を立てて 10 年後はこういう街でありたいんだっていう思いで計画を立てられているので、それに向かってですね色々今回もリーディングプロジェクトということで種まきをしていただけるわけですけれども、そういうのを進めていただけたらなという風に思っております。ただ産業構造、都市構造の再構築っていうのは行政がしっかり見通しを立ててやっていかないといけないハードの部分であったりとか、交通路線であったりとかっていうのは長期的な目線で計画はしていかないといけないとは思います。そうは言ってもそこに住む市民の皆さんが主体であるべきだという風に考えておりますが、改めて市長は市民が再構築の対象になるという風に捉えているのか、それとも当事者であるという風に捉えておられるのかお伺いをいたします。

【企画課長】 ご質問にお答えいたします。少しちょっと理解が追いついてないところもありますけれども、再構築の対象者か主体かということでよろしいですかね。再構築、新たに作り上げるということであろうという風に思いますけれども、それは今の町の姿をですね、市民の皆さんが協働してですね、思いを寄せ合ってと言いますか、方向性を１つにして互いにできることを役割分担をしながら進めていくべきものであるかなという風に理解をいたします。

【堀内富夫議員】 私の思ってることとほぼ一致になってると思いますのでそこは安心してるということでございます。続いて次の質問に行きます。

リーディングプロジェクトの進捗管理について

【堀内富夫議員】 ３番。このプロジェクトは本市の構造の、先ほどもずっと申しておりますが再構築に関わる重要な取り組みであり、市が、ここで市という風に単純に言っておりますがここで市って言っておりますのは庄原市民全員という意味合いで申しております。市が主体的に進めていくものと認識しています。計画をより良いものにするために外部委託を活用するのであれば、その成果を最大化するとともに委託期間中においても市

民が前進を実感できる工程化されるべきと考えます。具体的にどのように設計され、策定後において確実に実行に移すための統括や進捗管理の仕組みをどのように考えておられるのかお伺いします。

【八谷市長】 ご質問にお答えいたします。先ほどご答弁いたしました通りピースフルは複数年にわたる進捗を想定し段階的に進めていくこととしており、事業の具体的な設計につきましては令和 8 年度の事業進捗を踏まえ方向性を固めてまいりたいと考えております。またピースフルに限らずこれまでも様々な計画策定の際には外部の知見が必要の場合には業務委託を活用しております。その場合必要に応じて随時情報公開や進捗報告に努めており今後も同様に取り組みを進めてまいります。なおピースフルは分野横断的な取り組みであることから個々のプロジェクトは複数の関係部署によりプロジェクトチームで推進し、内部事務の効率性や専門性が高まるよう外部委託も活用しつつ、その統括はプロジェクトリーダーが担うこととしております。さらにプロジェクト全体の進行管理につきましては第 3 期長期総合計画に基づく他の施策や事務事業同様に適切な PDCA サイクルを運用し管理をいたしてまいります。

【堀内富夫議員】 もうずっとですねしつこいぐらい業務委託業務委託という風に申しておるわけですが、業務委託外部委託を別段この否定してるわけではなくてですね、それをいかに有効に使っていただけるかっていうところを言いたいところではございます。もしかして当然業務委託委託するわけなんですが、計画策定で 1 年間いていただけるっていうところで、最後出口ですね、出口の部分っていうのが、最後膨大な報告書をいただいて、はいじゃあこれが成果ですっていうわけにはいかないとは思います。この委託を通してですね、例えば当然庄原市内部にない知見であったり技術であったりっていうのを持ってきていただけるのが外部委託の強みであると思いますので、その強みをですねそのまま本市で吸収できないかなという風には考えております。ですので、委託を通じてですね、市の職員さんであったりとかあるいは市民の中に何かが残る必要があるのかなという風に思います。ノウハウであったり人のネットワークであったり、もしくはこういう風にまちづくりしてかにゃいけんなっていう考え方であったりとかですね、そういった委託の終わりに何を残すかっていう設計が必要かなという風に思いますが、この出口設計何か示されておるものがありましたら教えてください。

【企画課長】 ご質問にお答えをいたします。まさに先ほど議員が言われたことがですね、委託業務の成果物という風に思っておりますので、そうしたとこにつきましては発注時に仕様書で市の方で整理をしてこういった成果物を出してくださいと。出てきたものが、そうしたものに議員が先ほど言われたような形で知見であったり技術であったりということでその後の活用につながればそれは成果であったという風に考えます。

【堀内富夫議員】 是非ですね外部の知見いいものをしっかりともう吸収して庄原市最終的には実装できるようになるのが理想だとは思いますので、そのように進めていただいてですね、リーディングプロジェクトが読み上げるリーディングプロジェクトではなくて導くリーディングプロジェクトにしっかりとなるように進めていっていただけたらなという風に思っております。では続いて大項目 2。

世代と組織の壁を超え市民の力を生かす仕組みづくりについて

【堀内富夫議員】 世代と組織の壁を超え、市民の力を生かす仕組みづくりについてお伺いします。人口減少や定年延長に伴いまちづくりに関わる人材の構造が変化する中で、従来の行政主導型の体制だけでは地域を支え続けることが難しくなっているという風に考えます。本市には地域活動や事業、教育、福祉などの多様な分野で主体的に取り組む市民の力が存在しており、これらを生かす構造を明確に設計することが重要ではないかと考えております。そこで 1。こうした人材構造の変化を踏まえ興味関心の異なる若者世代とシニア世代が地域課題解決のために協働できる仕組みをどう設計していくのか市長の考えをお伺いします。

【八谷市長】 ご質問にお答えいたします。本日の岡野議員の一般質問でも答弁しましたが、本市におきましてはまちづくり基本条例に規定する参画と協働による市民が主役のまちづくりを進めており、地域課題の解決等に向けては多様な主体が連携協働していくこととなっております。人口減少や少子高齢化が進む中、世代を超えた交流が図られ、とりわけ将来を担う若者世代がまちづくりに興味関心を持つことは大変重要なことであると

考えております。現在各自治振興区におきましては地域の環境整備やお祭り、その他様々な行事等の運営や企画に大学生など若者世代も参画し実施している事例も多数ございますし、市におきましては学生団体が企画運営するまちづくり活動を支援する事業などを行っているところでございます。今後とも若者世代の多様な意見やアイデアをしっかり発掘し地域課題へ生かせる活動の支援や多世代がつながる機会の提供に取り組んでまいります。

【堀内富夫議員】 お祭りなんかでも若者が参加していたりとかですね色々なところで活動の場っていうのがあるというのも承知しております。ただ構造的にですね、例えば若者のやってみたいことを挑戦してみたいことと、シニア層が持つ経験あるいは時間であったりとかっていう地域課題を軸にしたところの接続点っていうのがまだ少し弱いのかなという風に感じるところがあります。これを市が主導してというわけではないんですが、意図的に何か制度設計みたいなところで設計する考えがあるのかどうかをお伺いします。

【自治定住課長】 ご質問にお答えをいたします。地域活動におきましてはシニア世代がこれまで培ってこられました経験や知識は大変重要なものであると認識しております。また若者世代の新しい発想や行動力も地域づくりには重要であると考えております。そのためシニア世代の経験と若者世代の柔軟な発想が相互に生かされるよう自治振興区などの地域活動の中で多世代が関わる機会づくりが必要であると考えております。市長答弁にもありました通り、現在自治振興区の活動においては地域行事や環境整備などの取り組みに大学生等が参加する事例もございますし、市におきましても学生団体が企画運営するまちづくり活動の支援、またそれらの活動を広く自治振興区や市民の皆さんへ共有し新たな気づきや交流につなげる機会の提供なども行っておるところでございます。今後も若者世代の多様な意見やアイデアを地域活動に取り入れられる場づくり、多世代が交流しながら地域課題を考える機会が充実し、多くの地域へそういった取り組みが広がっていくような情報発信や交流機会の提供に努めてまいりたいと考えております。

【堀内富夫議員】 是非ですねそういった機会をこれからもですね色んな場で増やしていただいたらいいなという風に考えております。若者が当然県大もありますし色々関わる機会というのはあるんですが、まちづくりというところでなかなか深く入っていけない部分も実際あるのではないかなという風に考えております。別に若者たちが無関心であるからっていうわけではなくてですね、関わりたくてもそういった深い部分に関わればどこに行けばいいのだろうとか、関わってもよう来たねっていう感じでそこで終わってそこから深い話にならなかったりであったりとか、何より自分たちが関わってどう未来が変わるんだろうかっていうイメージが湧かなかったりであったりとか、その辺りがなかなか実感が持てずに結局違う世代との関わり深いところでの関わりっていうのがなかなか持続しないのかなという課題があるのかなという風には感じております。そういった課題をですね、当然自治振興区であったりとかですね民間の団体でも進めていければいいなという風には思ってはいるんですが、市としてですね、動機づくりきっかけづくり、深い部分のまちづくりの部分での関わり方の設計っていうのを何か考えていらっしゃったら教えてください。

【自治定住課長】 ご質問にお答えをいたします。若者世代が地域活動に関心を持ってそういった活動に参加しやすい、そういった入り口づくりの部分が重要であるということで認識をしております。先ほども申し上げましたように市におきましては様々な学生の企画運営する事業の支援等行いまして、またそういった活動をですね先般 3 月の最初にも開催いたしましたみんなつながる地域交流会等でですね、そういった取り組みの発表をしていただくなどを通じましてですね、学生の方の取り組みなど紹介することによりまして、地域とそういった活動がつながって今後そういった地域活動の中でも生かしていけるような取り組みをしておりますので、今後もそういったことを通じまして、また広報等でもですねしっかりそういった活動を PR することなどを通じまして、そういった活動が広がっていければという風に考えております。

【堀内富夫議員】 先ほどの岡野議員の質問の中にもあったようにですね、色々な地域で色々な取り組みされていますし、自分の地元の比和町でもですね先日集いの会っていうのがございまして、小学校、中学校、また今回は庄原ファンクラブのお試し留学で来た子たちが再び町に来てですね、比和の町をどういう風にしたらいい

かっていう発表もしていただいたりですね、あとは広大の先生も入っていただいたりとかというところで、今回で言うと自治振興区で比和そして社会福祉協議会三者連携で色々そういった発表会を場を設けてですね情報共有などもさせていただいてますが、発表で終わらずもうちょっと深い部分に入れたらいいなという風に思いがありますので、その辺りも考えていただけたらいいなという風に考えております。では続いて次の質問に移ります。

長期総合計画の推進主体について

【堀内富夫議員】 2。第３期長期総合計画のスタートにあたり本市が持続可能であるためには長期総合計画の推進主体を行政から官民共創へと進化させ多種多様な市民の力を政策や事業実施の中に組み込む行政運営と転換する必要があると考えるが、市長の見解をお伺いします。

【八谷市長】 ご質問にお答えいたします。先ほどもご答弁しました通り本市ではまちづくり基本条例を制定し、市民、市議会、市の役割と責務等を定め参画と協働によるまちづくりの推進を図ってまいりました。同条例では市長の役割として市民の意向を尊重し自らの判断と責任において総合的かつ計画的にまちづくりを推進すると定めるとともに市の最上位の行政計画である長期総合計画に沿った市政運営を求めております。また市民はまちづくりに参画する権利を有し積極的にこれに参加するものと定めています。こうした趣旨を踏まえ、市は推進主体として長期総合計画の進捗に責任を持ち、市民事業者を始めとする多様な主体と連携し、官民それぞれの役割を全うしながら着実にまちづくりを進めることが重要であると認識いたします。

【堀内富夫議員】 もう本当に何度も何度も同じようなことを聞いてですねしつこいなという風に思われるかもしれませんが、先ほども申しております通りもうちょっとこう深みの部分に入っていく必要がある時期に来たのかなという風に考えております。施政方針今回読ませていただきますと、官民連携という言葉が随所に出てまいります。DMO であったりとか産学官であったりとかですねその辺り。ただ連携はずっとされているというところでありますが、時代の流れというのもありますが、人口減少財政硬直で産業衰退、この辺り今緩やかにですが向かっているようには思われて仕方ないですね。連携っていうのはしている中ではあるんですがいまいち上向きにならない理由というかですねその辺り、これからも連携でいいのかというところですが、同じ構造を繰り返すというところに対して何かお考えがあればお伺いしたいです。

【企画課長】 ご質問にお答えをいたします。官民連携がこれまで成果を上げていないということのそういう意図かなという風に捉えておりますけれども、これまでもですねそれぞれの分野で連携を進めておりましたが、先ほどの答弁のちょっと繰り返しになりますけれども、本当の意味でのですね分析と言いますか目標の共有であったりだとかそこに至る手法の正確性であるというか効果がきちんと出たも、出るものであったかどうかっていうところの検証からですねスタートしていかないといけないかなという風に思っております。そうした中で今回の３期の長期総合計画でもそうしたところをしっかりと見据えた形でですね各部署で取り組みを進めてまいりたいという風に考えております。

【堀内富夫議員】 是非ですねその辺りの検証もしっかり進めていっていただけたらなという風に思っております。ただ長期総合計画の段階でのアンケートの回答率であったりとかですね、やはりどこかよそごとになってしまっている部分ができてるのかなという風に感じるところがありますので、人口もですね３万人を切ろうかというところに来ているわけでありますし、それを好機と捉えて言ったらちょっとおかしいかもしれませんが、人数が少ないのであればそれなりに関われる深みを出せる部分っていうのが増えてくるのではないかなという風に捉えますので、そこをですね連携からですね共創へと共に創るですね、共に創るというところに転換してもいいんじゃないかなという風に考えております。ただ共創共に創るっていう段階に来ましたら当然市民の皆さんにも意思決定に関わってくるような場面当然あると思います。そうすると色々難しい部分っていうのはあると思います。審議会とかワークショップ等するだけではなくてですね、その辺りの深い部分に入ってもらえる余地というかそういった設計というのは可能なんでしょうかお伺いいたします。

【企画課長】 ご質問お答えいたします。先ほど市長答弁にもありました通りまちづくり基本条例においてですね、市民はまちづくりに積極的に参画をするというようなことも謳われております。そうした中でそうした機会を採るのはこれは当然のことという風に理解をしておりますので、そうしたことを念頭にですね市民意見の聴取と言いますか反映というところはしっかりとやっていきたいという風に思っております。

【堀内富夫議員】 これまでも市民参画の場があったということですが、なかなか実感として市民っていうのは誰なのかっていうところにたどり着くことがあるかもしれませんが、本当に多くの人多種多様なですね力を持った方いらっしゃいますので、多く呼びかけをしてですね本当に漏れなく庄原の魅力がこう広がっていくような共創協働ですね、をやっていければいいなという風に考えております。当然ある程度リスクもあると思いますが、ここは覚悟を持って進めていかないといけないと思いますので、最後に市長のお考えを聞いて終わりにしたいと思います。

【企画振興部長】 ご質問にお答えいたします。先ほど来ご答弁させていただいてる部分もございますけれども、まちづくり基本条例の原則に則ってですねしっかりと協働共創していきたいという風に考えておりますが、市長答弁にもありましたように多様な主体と連携してですね、官民それぞれがやはり役割をしっかりどういうことをしてくのかというところも明らかにしながらですね、着実に進めていかなければいけないという風に考えております。

【堀内富夫議員】 是非ですね庄原市の最大の財産は私は人だという風に思っております。外から訪れた方もやはり人が良かったという風にみんなおっしゃっております。豊かな自然、農作物色々ありますが、やはりまずは人だと思いますので、その辺りよく吟味していただいてですね守っていくそしてつなげていくという形で進めていっていただきたいなという風に思っております。以上で質問終わります。

【桂藤和夫議長】 以上で堀内富夫議員の質問を終わります。この際暫時休憩いたします。再開は午後１時５分からといたします。